

スペインを独裁国家から繁栄する民主 国家に変貌させたもの

～3回に亘るスペイン在勤を通じて感じたもの～

2024年6月28日

日西経済友好会会長

田中克之

今日、お話ししたいこと

- (1) フランコ将軍はスペインの今日の繁栄とは無関係な単なる独裁者であったのか？
- (2) なぜ、日本と異なり、スペイン憲法をめぐっての政党間の争いがないのか？
- (3) 民主化を平和裡かつスピード感をもって実施できた最大の功労者はだれなのか。
- (4) EU加盟は今日のスペインの繁栄にどの程度役立ったのか？

私とスペイン

1. 1965~68年（語学研修生、3等書記官）

●フランコ独裁全盛時代 ●色調は灰色 ●「ピレネーから南はアフリカ」 「España es única y diferente」 （ヨーロッパから相手にされず） ●米国が頼り ●テクノクラートによる経済運営（観光と国営企業、外資導入）

思い出：大学寮生活、水素爆弾（4発）の落下、書記官勤務初日の失敗、フランコ総統との握手

2. 1976~78年（総務・政務担当1等書記官）

●フランコ死後の不安感 ●朝から晩まで「民主化」と「国民和解」 ●アドルフォ・スアレスというニューフェースの出現 ●西欧の枠組みに入ることへの強い願望（外国の反応に神経質なマスコミ報道）

思い出：若手外交官グループとスペイン要人（Fraga Iribarne, Felipe Gonzalezなど）との
会合

3. 2001~04年（大使）

●自信を回復したスペイン人 ●インフラが充実したスペイン ●「手強い相手」と目されるスペイン ●女性が活躍するスペイン ●古き伝統が失われたスペイン

思い出：国王ご夫妻、Felipe皇太子殿下との話



サラマンカ大学正門



Plaza Mayor de Salamanca



2024/6/28 Fraga y Angier Biddle Duke se bañan en Palomares el 8 de marzo de 1966.



スペインに関する主要事項年表(1)

年	事項	年	事項
1939~45	世界大戦に参加せず中立国として振る舞う	1969	フランコ、ホアン・カルロス王子を国家元首後継者に指名
1946	国連総会でスペイン排斥決議(～50年)	1973	カレーロブランコ首相、ETAにより爆殺
1947	国家元首継承法制定(スペインは王国と宣言し、フランコは終身摂政となる一方、後継者となる国王指名権を有することを認める内容)。国民投票で圧倒的支持。	1975	フランコ死去、Juan Carlos 1 世即位
1953	米西防衛協定調印(米国に基地提供)	1976	スアレス政権発足、政治改革法、国会・国民投票で承認
1955	国連加盟	1977	共産党合法化。制憲議会設置のため、1936年以来の民主的総選挙実施、スアレスのUCD(民主中道連合) 勝利。モンクロア協定成立
1958	IMF, 世界銀行加盟	1978	「憲法の父」7名により起草された1978年憲法、国会で承認、国民投票で承認され成立
1959	アイゼンハワー米国大統領スペイン訪問	1981	ソテロ首相就任時に軍将校(テヘロ中佐) 等200名が国会議場占拠。国王の「憲法の民主プロセスを暴力で破壊しようとするいかなる試みも容赦しない」との毅然とした対応によりクーデタは失敗。
1964~73	日本に次ぐ高度経済成長(スペインの奇跡)	1982	NATOに加盟。総選挙でPSOE(社会労働者党) が圧勝。フェリッペ・ゴンサレス、首相に就任～96

スペインに関する主要事項年表(2)

年	事項	年	事項
1983	全国17自治州の設置完了。	2011	ETA,武装闘争停止を宣言。総選挙でPPが圧勝。ラホイ政権（～2018）
1986	EC（ヨーロッパ共同体）に加盟。NATO参加見直しを問う国民投票、僅差で残留決定。	2014	ホアン・カルロス一世退位。フェリッペ6世即位。
1992	セビーリャ万博、バルセロナ五輪開催。	2015	総選挙で市民党とポデモスが躍進。多党分立結果となる。
1996	総選挙でPP（国民党）が勝利。アスナールが首相に就任（～2004）	2017	カタルーニャで違憲の「民族自決権レフエレンダム」強行。
2003	イラク戦争で米英側に立ち参戦。	2018	ラホイ内閣不信任案可決、PSOEサンチェス政権成立。
2004	マドリード同時列車爆破テロ事件。アスナール誤認発言。これが原因となり総選挙でPSOE勝利。サパテロ、首相に就任。	2019	総選挙で極右政党VOX台頭。フランコの遺体、戦没者の谷十字教会から移籍
2007	歴史的記憶法制定	2020	サンチェス、PSOE/podemos連立政権誕生（～現在）
2010	カタルーニャの新自治憲章一部違憲判決。この頃から、カタルーニャで独立系の運動が高揚		



Wikipedia
フランシスコ・フ...

フランコとホアンカルロス 一世



晩年のフランコ将軍と次期国王となったファン・カルロス1世 (1975-2014)



アドルフォ・スア
レス首相



Calvo Sotelo 首相

2024/6/28

テヘーロ中佐等による国会占拠事件

1981年





ゴンサレス首相

アスナール首相



サパテロ首相



ラホイ首相

サンチェス首相



独断と偏見を込めて答えるとするば、

1. フランコ将軍については、

- 1) ヒトラーやムソリーニの誘いに乗らず、結果的に第2次世界大戦への参戦を回避したこと
- 2) 社会の宥和剤になれる王室を復興させ、Juan Carlos王子に帝王教育を施したことは大いに良かった。

2. Juan Carlos国王については、

- 1) 国際情勢をよくわきまえ、「すべての国民の王」たらんと努力し、
- 2) 自分が選んだスアレス首相をよく支え、テヘーラ中佐等による国会占拠事件に際しては、毅然たる態度でこれを戒め、世界に対し新生民主国家スペインを知らしめた功績は極めて大きい。

3. スアレス首相については、

1) フランコ主義者、軍、左派の反体制派との困難な協議を粘り強く進め、自由で民主的な政治改革法の国会承認、国民投票による承認に繋げたこと、そしてこれに基づき共産党も含む全主要政党が参加する制憲議会選挙を行い、各党が参加したモンクロア協定に繋げ、1978年憲法の公布に至らしめた功績は絶大であった。

4. なお、忘れてならないのは、以上のようなことが首尾よく動いた背景に、左派勢力が「移行期の正義」(民主化以前の旧政権の犯罪を問い、正義を回復しようとする姿勢)を声高に唱えなかったことが大きいということ。

EUとスペイン: 1986～2006の間、スペインは最大の受益者であった。

- 1986年のEU加盟以降の補助金額は正味853億ユーロに上る。
- 高速道路の40%はEUの資金で建設。
- 1985年以降、EUの農業支援額は30倍増加している（1985年の2億1000万ユーロより、2004年は64億ユーロに増加）
- EU漁業支援の46%はスペインに支給されている、
- 外国からの投資の90%は他のEU加盟国による。
- EUは年間30万の雇用創出貢献してる
- EUの奨学金制度を利用し、17万人の国民が留学している
- ユーロの導入によりEU加盟国からの旅行客も増えているが、EUからの観光客は全体の87%をしめる。

- ご清聴ありがとうございました。